

地元食材を使用したカフェテリア計画！

東海林商店（由利本荘市商工会）

中山間地域に位置する農村集落では過疎・高齢化の進行により集落機能の低下や農林業の停滞が課題となっている。また、社会経済の環境変化に伴い、生活を維持するために必要な生活関連サービスの機能低下も危惧され、いわゆる「買い物弱者」の増加などに対応した取り組みが問題となっている。

●東海林商店

由利本荘市大内上川地区に明治期開業の商店。酒・たばこ、食品・雑貨を扱っている。お客様への生活用品の販売のほか、宅配受付や冠婚葬祭のアドバイスなど、地域密着型の商店経営を行っている。近隣を見渡すと、同業者の商店も後継者不足などの理由から閉店する店舗もあり、地域の商店も減少傾向にある。数年前から東海林商店代表の長女で栄養士の東海林あゆ美さんが店舗の手伝いととも、琉球菓子などの製造・販売を行うなど、新たな店舗展開を見せている。



店舗前の道路から東海林商店を臨む



あゆ美さんは、地元の幼稚園の栄養士として勤務するかたわら、金曜日と土日に商店を手伝っている。地元のお客様にとって「利用しやすい商店」でありつづけてほしいとの想いはあるが、人口減少などにより、今後、地域の先細りが予測される。

その一方で、「地域の農業が元気」だと感じており、最寄りの直売所には農産品から加工品まで幅広い品揃えがある。当商店としても、地元の農産品などの食材を使用したお弁当や加工食品の製造・販売を通じて、地域の情報発信を行いたいとその想いを語る。

沖縄カフェへの想い (東海林あゆ美さん)

東海林あゆ美さんのお母様は沖縄県出身、そしてご自身の旦那様も沖縄県出身。沖縄への「想い」を強く抱いていた。そこで商店の一角に地域の方が集えるカフェテリア、「沖縄カフェ」を設置したいと経営計画を作成。沖縄の家庭料理や琉球菓子などを楽しんで頂ける「集いの場」を目指すこととした。「沖縄カフェ」の運営を通じて、地元で食材を「生産する人」、「消費する人」がお互いに利益が得られるような場の提供と、栄養士の資格を活かし、お客様の抱える健康面でのサポートを「食」を通して貢献したいとの想いがあった。

「地元食材」「健康志向」沖縄カフェ「て〜げ〜」開店！

地元食材へのこだわり、健康志向への配慮などをコンセプトとした沖縄カフェ「て〜げ〜」をオープン。商店の中に入ると店舗の一角に広がる異空間、カフェの名称である「て〜げ〜」は沖縄の方言で「だいたい」「おおよそ」の意味で、「のんびり・気楽にいこう」という想い。

金曜日と土曜日がカフェの日、本格的な沖縄料理やお菓子が楽しめる。また、定期的なイベントの開催や口コミなどで地元以外からご来店するお客様も増加している。



店舗に入ると一見商品が並ぶ「商店のレイアウト」だが、左側奥に目をやると素敵なカフェテリアコーナーが広がっている



カウンター席の他、テーブル席もあります



沖縄そば

活用した補助金の内訳

●店内改装等（外注費）

●流し台等（機械装置費）

補助事業の取り組みを終えて

東海林商店

東海林あゆ美さん

店舗の場所は、大仙市市街地と由利本荘市市街地との中間に位置し、近隣には牧場やロッジなど自然と触れ合えるスポットが数多くあります。「地元を観光地に！」を目標に、地元の情報を発信していきたいと思ひます。



左：加藤指導員 右：東海林あゆ美さん

担当指導員の声

（由利本荘市商工会 加藤大作）

口コミや Facebook を通じてお客様が増加しております。地域の魅力を発信する拠点として機能が期待できます。